

3年生 健康栄養学科 健康スポーツ栄養専攻 専門教育ガイダンス 資料

1. 卒業要件について (p.2)

□要卒単位：卒業要件を満たすためには、4年以上在学し、以下の単位数以上を修得しなければならない。

対象	基礎・教養科目			専門科目			合計
	必修	選択	合計	必修	選択	合計	
2018年度入学生	11	19	30	63	35	98	128

2. 履修登録について

□カリキュラム (p.49-53)、開講科目表 (p.337-342)

□履修登録単位上限 (p.53)：1年間に履修登録できる要卒科目の上限は 48単位。

自由科目に関しては、上限を超えて認めることがある(例：教職課程の履修)。→教務委員に相談

□履修登録 (p.4)：今年度履修する前期・後期全ての科目を前期履修登録期間内に光華 navi で一括登録。
後期開講科目の追加・変更は、後期の履修登録期間で可能。
登録した科目の履修を取り消す場合は、履修登録取消期間内に行うこと。

前期履修登録期間：4/13(月)～4/24(金)	後期履修登録期間：9/18(金)～9/27(日)
前期履修取消期間：4/28(火)	後期履修取消期間：9/30(水)～10/1(木)

3. 授業・時間割について

□授業および試験 (p.7-12)：授業時間、休講、試験(受験資格、定期試験、追試験、再試験)

※但し2020年度前期は、通常授業(15回)内に試験やレポートの提出を課すため、定期試験期間および追試験期間を設けない

□時間割(A4版)：基礎・教養科目の必修科目、クラス指定がある選択科目、専門科目、教職関連科目が記載されている。実験・実習科目は、A3版の時間割表にしたがって登録。

例) 前期・火曜 1～3限の実験・実習 ※実際の授業はA4版の時間割のとおり

1限 人体の構造と生理実験 c、2限 人体の構造と生理実験 c、3限 応用栄養学実習 c

□時間割作成：「基礎・教養科目や専門科目の必修科目」→「教職に関する科目」→「基礎・教養科目や専門科目の選択科目」の順に時間割を組み立てること。

□集中講義：時間割表欄外に記載。必要な科目の登録を忘れないこと。例)「安全管理と救急処置」

□再履修科目 (p.4)

- ・不合格になった必修科目は、原則として次年度において必ず再履修しなければならない。時間割上重複する場合は、3年生科目を優先して履修する。

- ・専門科目を再履修する場合、クラスは問わない。基礎・教養科目の再履修については、履修不可のクラスがあるので、教務委員に確認すること。

- ・1・2年生科目の再履修のため、やむを得ず3年生科目の履修クラスを変更する場合は、必ず履修登録の前に教務委員に相談すること。

4. 基礎・教養科目の履修上の注意

□基礎・教養科目：卒業要件（30 単位）を満たしているか確認すること。

「インターンシップ」の履修にあたっては、p.5 を参照のこと。

5. 専門科目、資格関連科目の履修上の注意

□専門科目：卒業要件を確認し、不足する選択科目の単位を計画的に取得すること。

□クラス指定科目：専攻内でクラス指定がある科目については、各自のクラスで登録。

□「健康総合演習 A」（通年・前期金曜 5 限、後期金曜 4 限）：健康運動実践指導者と栄養士実力認定試験の対策を行うので、必ず履修登録すること。

□臨地実習：4 年次に各臨地実習先で実習を実施するが、3 年次にオリエンテーション等を実施する。日程等については、追って連絡。

□資格関連科目

◇栄養士（p.206）：栄養士取得のための選択科目が 11 単位あることに注意。

◇教職課程（p. 152,153,181-182,186-188）：栄養教諭 2 種、中学校・高等学校 1 種（保健体育）

・教職に関する科目、栄養教育に関する科目および「日本国憲法」、「スポーツ実技Ⅰ」、「スポーツ実技Ⅱ」、「英語 S1」、「ICT 演習Ⅰ」、「ICT 演習Ⅱ」の 6 科目の単位取得が必要。

・教育実習の資格認定基準（p.182、188）を満たすように 3 年次までにすべて履修すること。履修できなかった場合、4 年次の教育実習の履修は認められない。

・「生徒指導論」、「教育心理学」は、昨年度未履修のため、3 年次に履修すること。

・「道徳教育の理論と指導法」、「教育相談」は、中学校・高等学校 1 種（保健体育）免許状取得希望者は、昨年度未履修のため、3 年次に履修すること。

・教職ガイダンス、教員採用試験対策講座説明会に参加すること。

・事前事後指導は a が栄養教諭、b が保健体育。該当者はそれぞれ履修する。

◇健康運動実践指導者（p. 284-285）

・試験（筆記・指導実技）は、原則 3 年次の 11 月から 2 月にかけて行われる。

◇健康運動指導士（p.286）、日本スポーツ協会公認スポーツ指導者（p.288）

要卒科目、栄養士取得に必要な科目と重複するものもあるので、うまく組み合わせて履修すること。

◇フードスペシャリスト（p.282-283）、障がい者スポーツ指導員（p.287）：関連する科目を 3・4 年次で履修すること。

その他の資格の取得については、教務委員まで申し出ること。

6. 栄養士実力認定試験について

□栄養士実力認定試験：栄養士実力認定試験を 3 年次の 12 月上旬に受験する。

試験対策については、主に「健康総合演習 A」の中で行う。

□試験実施日：12 月上旬

□試験による認定

A: 栄養士として必要な知識・技能に優れていると認められた者

B: 栄養士として必要な知識・技能のあと一步の向上を期待する者

C: 栄養士としての知識・技能が不十分で、さらに研鑽を必要とする者

□試験対策授業：詳細については、追って連絡。

7. 各教員の研究室、大学からの連絡について

□個人研究室：教員への相談や質問がある場合は、シラバスのオフィスアワーの記載にしたがって来室すること。

□食物栄養研究室：5号館1階 ☎ 075-325-5402

基礎科学研究室：聞光館3階 ☎ 075-325-5431

※緊急時に学科から連絡する場合があるため、☎登録しておくこと。

□学科コモンズ前掲示：学科に関連する情報を掲示しているので、学内掲示板とあわせて定期的に確認する。

□光華 navi：大学や学科からの連絡に備え、携帯へのメール転送を必ず設定しておくこと。

8. 専門教育ガイダンス資料についての質問

・質問がある場合は、食物栄養研究室にてメール (shoku@mail.koka.ac.jp) および電話 (075-325-5402) で受け付けるので、早めに連絡すること。

・この資料の内容は、4月6日現在のものである。随時変更される可能性があるため、新しい情報については、naviやHPをこまめにチェックすること。